

デジタルアーカイブ学会 第6回研究大会企画セッション
セッション2.多様な担い手たちによる地域資料継承セッション
日程 2021年10月16日|会場: 東北大学災害科学国際研究所

奥州市における資料調査活動

～産学官連携の「産」の立場から～

合同会社AMANE

堀井 美里



本日の内容

1. 概要
2. 方法
3. 体制
4. 成果の公開
5. まとめ－産学官連携による調査事業の特徴－

1. 概要





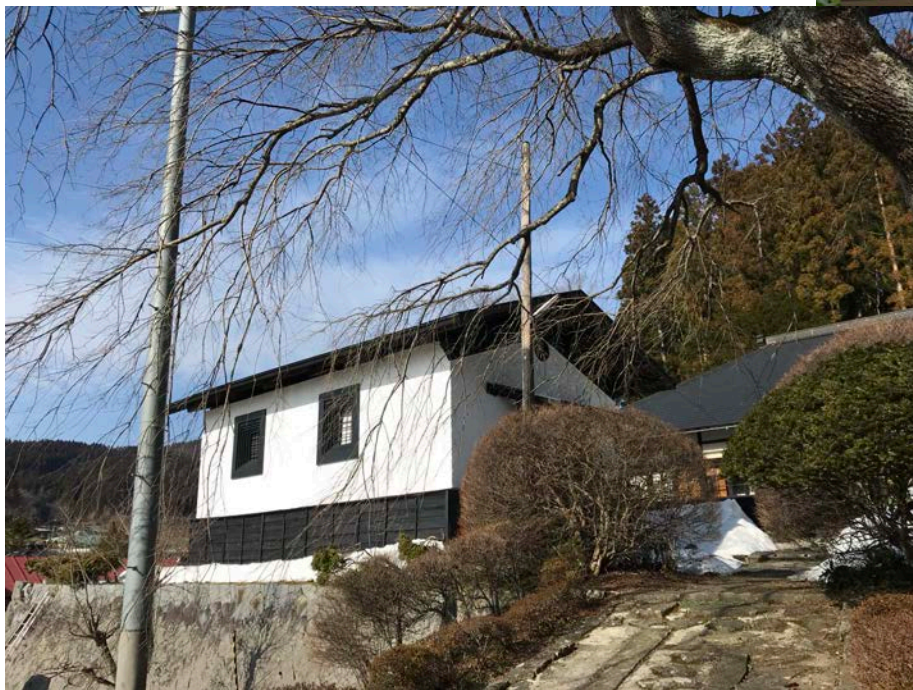
例 1) 公有古文書等歴史史料の調査・研究

1. 期間 2020年度、2021年度
2. 形態 受託研究契約 *2021年度は共同研究契約
3. 場所 奥州市内の文化財保管施設
4. 参加者 奥州市関係者（2名）、国立歴史民俗博物館（4名）、合同会社AMANE（3名）
5. 目的 「**産学官連携に基づいた地域資料継承支援事業**」に基づき、奥州市が所蔵するアーカイブズ史料について、**史料群ごとに網羅的に数量・特徴・劣化状況・被災可能性等の概要を調査**し、今後の研究や活用および保存・継承に使用できる基礎的なデータを構築すると同時に「**地域資料情報継承記録モデル**」を検討する。
6. 成果
 - ・ 34件の史料群の概要を調査し、約42,000点の概算文書点数を確認。
 - ・ 史料群ごとに、史料継承のために必要な情報を記録しリスト化。
 - ・ 記録した情報について、公開レベルや利用ルールを検討し、関係者間で情報共有
 - ・ 地域史研究講座で市民向けの成果報告会を開催

例 2) 人首文庫及び佐伯家所蔵資料群に関する総合資料調査

1. 期間 2021年度
2. 場所 人首文庫・佐伯邸
3. 参加者 奥州市関係者（3名）、国立歴史民俗博物館（4名）、合同会社AMANE（3名）、大学・民間研究者（5名）、他自治体関係者（1名）
4. 事業名
 - ・ 人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」
 - ・ 国立歴史民俗博物館総合資料学奨励研究「近現代地域歴史資料継承のための情報公開手法の検討」
5. 目的 **資料の悉皆調査（全体把握）**を行い、どのような性質の資料がどれくらいあるのか、概要と構造を把握するとともに、研究者や自治体担当者、地域住民や企業など様々な立場の人々による議論を重ね、**成果を社会で共有するための基準を検討**する。
6. 成果
 - ・ 20,000点以上の概算文書・書籍点数と資料群全体の構造を確認。
 - ・ 新出文書の発見
 - ・ 記録した情報について、公開レベルや利用ルールを検討し、関係者間で情報共有（予定）
 - ・ 市民講座で地域住民向けの成果報告会を開催（予定）

人首文庫及び佐伯家



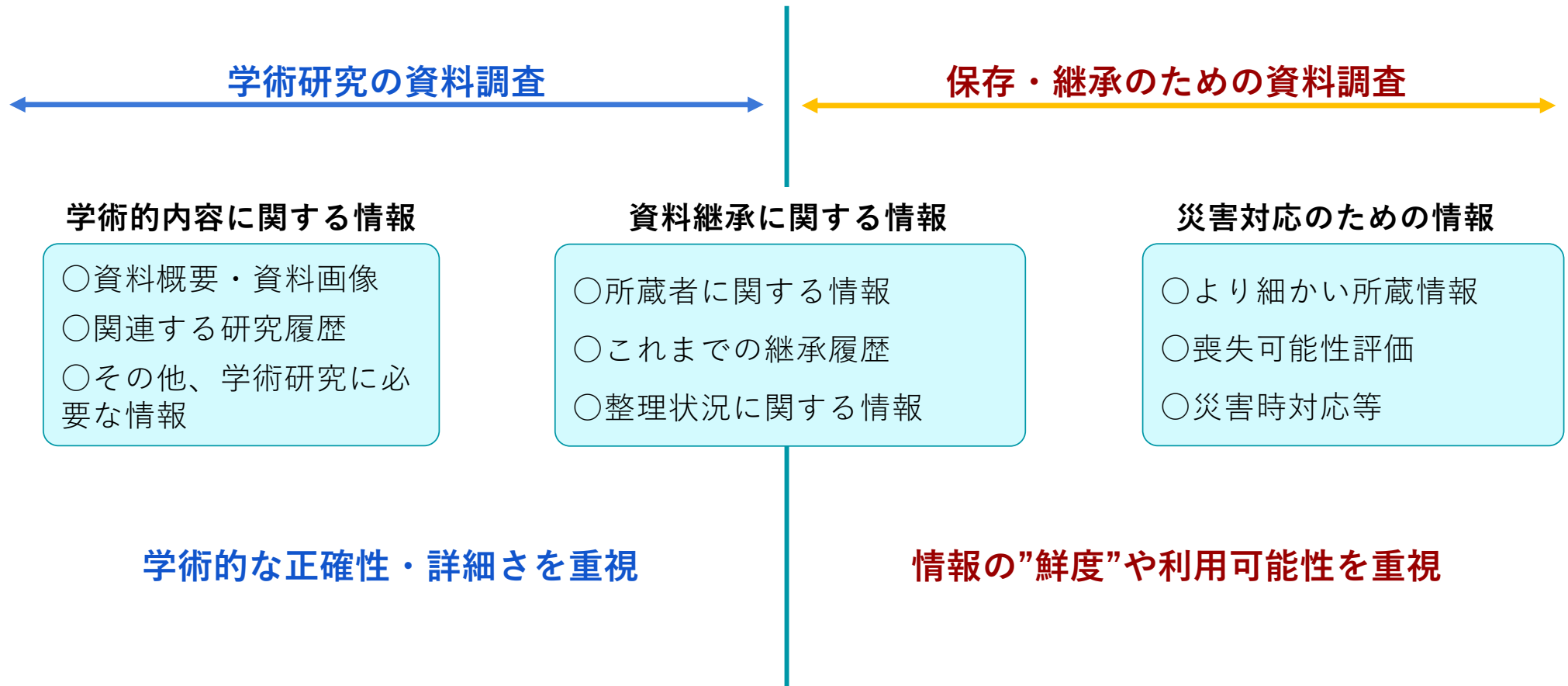
地域資料情報継承記録モデル

1. 地域資料を保存・継承・活用していくためにはどのような情報を記録したらよいか？
2. 記録した情報を共有、活用するためには、どのようなルールが必要か？

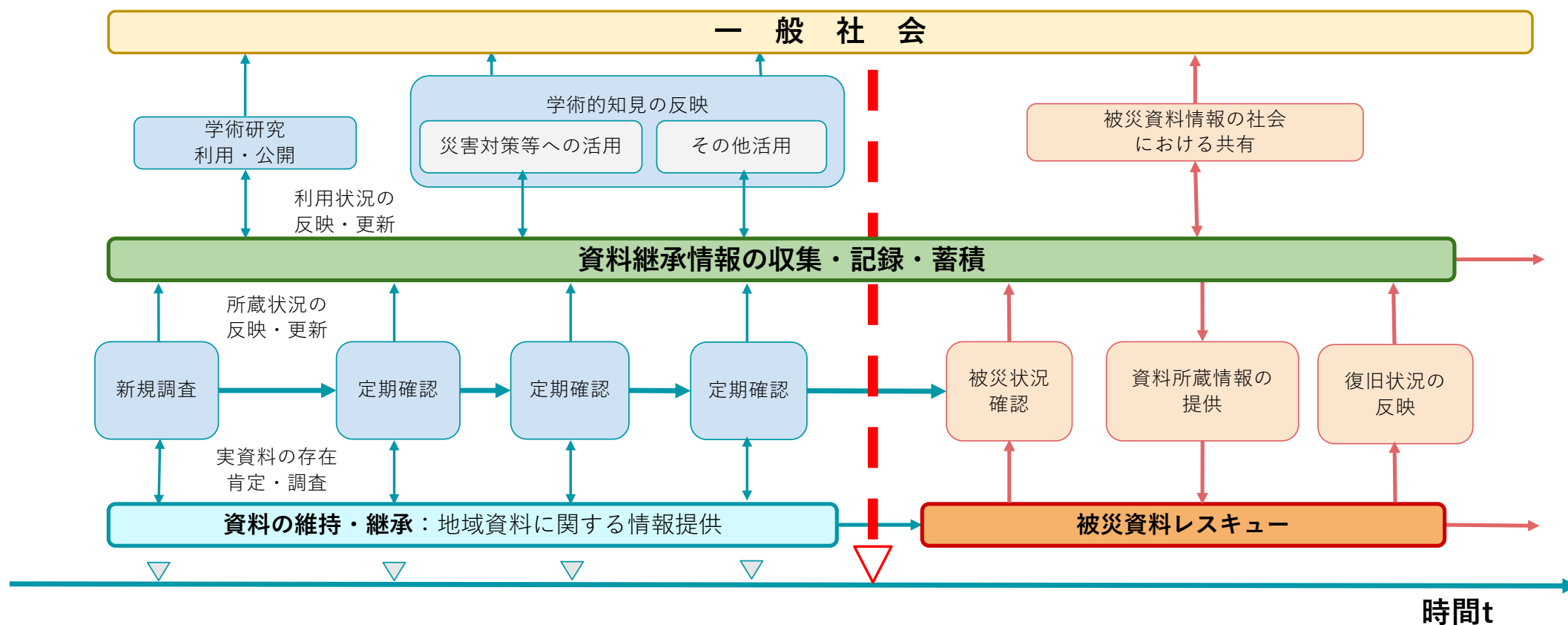


情報が共有・活用される状況、必須な項目、記述ルール・方法、公開レベル・ルールの設定（個人情報保護と情報共有）、公開方法、活用ルール（研究、教育、被災レスキュー、産業など）を考える必要がある

記録する資料の情報



平常時・災害時における資料情報の収集・活用



地域資料情報継承記録モデル

1. 資料内容・所蔵に関する基本情報

【公開】資料群ID、資料（群）名称、年代、数量（概数）、概要、資料群の属性、管理者、同所在地緯度、同所在地経度、所蔵者

【管理者のみ公開】容量（箱等の数）、所蔵に関する履歴、管理担当者、管理連絡先、収蔵場所名称、同住所、同詳細、同緯度、同経度、同標高、同MAP、同図面、資料内容・所蔵に関する備考、箱等の形状・大きさ等

2. 資料本体の経緯に関する情報

【公開】文化財指定の有無 **【非公開】旧所在地、旧所蔵者**

【管理者のみ公開】状態（劣化等）、修復歴、滅失・き損・亡失・盗難、資料複製の有無、経緯に関する備考

3. 整理・情報化に関する情報

【公開】目録媒体、目録レベル、画像の有無

【管理者のみ公開】調査状況（目録有無）、個人情報・要取り扱い情報の有無、資料情報に関する履歴、資料整理に関する備考

4. 被災可能性に関する情報

【管理者のみ公開】被災性に関する所蔵場所詳細、耐被災性に関する所見、レスキューに対する留意事項、緊急時の連絡先、被災可能性に関する備考

5. 本リスト情報に関する情報

【公開】目録利用条件、画像利用条件、情報更新日

【管理者のみ公開】最新所在確認日、最新所在確認者、情報更新者、全体に対する備考

2. 方法



予備調査（1日間）

1. 目的

- ・ 調査先への調査・研究内容の説明
- ・ 本調査計画の検討・立案のため、対象とする史料群および資料の選択、作業量の見積り、現場状況の把握などを実施

2. 手順

自治体関係者等から事前に提供されたリスト等をもとに、史料群および資料の現状を確認し、保管されている場所や容器について予備調査調査票に記録し、現状を撮影

3. 結果

- ・ 保管場所ごとに図面を作成し、保管容器や資料の簡単な内容などを記録した予備調査リストを作成
- ・ 本調査の優先順位の確定
- ・ 本調査計画立案（作業量・日程・分担・手順など）

調査票の記入・現状の撮影

記録者（ ） 奥州市古文書下調査 調書 2020年6月25日（木）

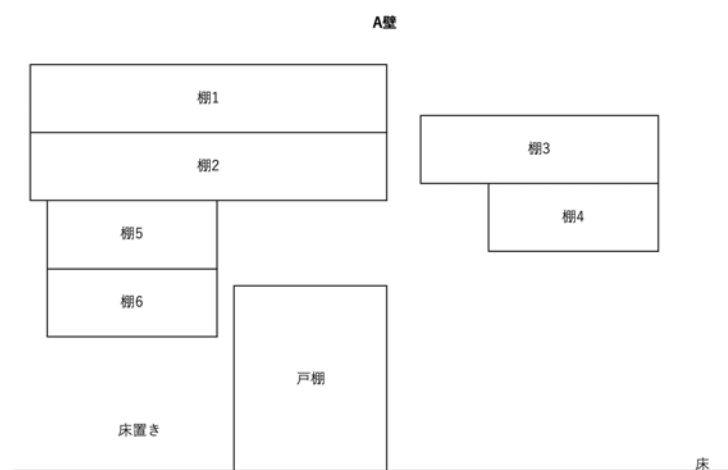
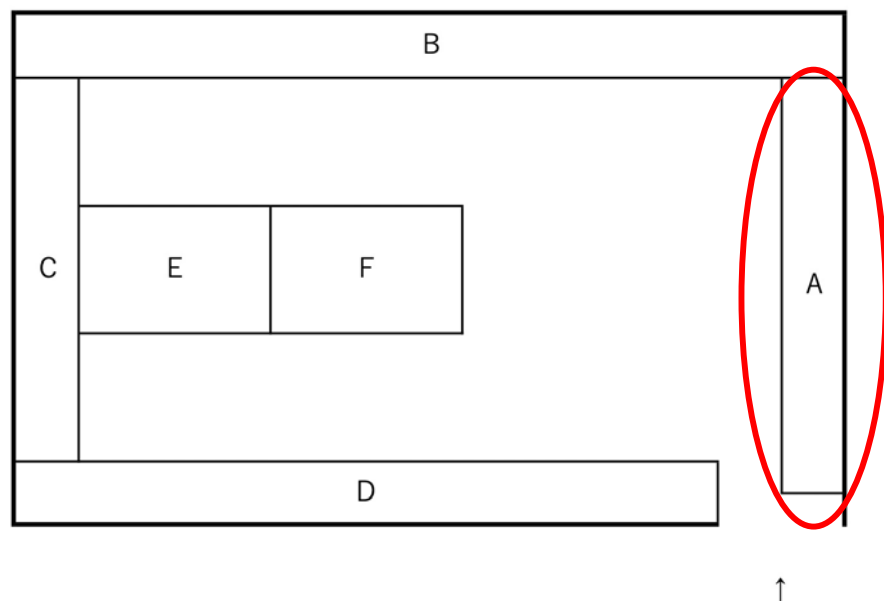
史料群名	
保管場所	
数量（箱数など）	ダテール1、行李小2、フシ1、カゴ2
大まかな位置、メモなど	車庫1 (体育館)
。おわん包紙文書 。行李に古文書～香典帳、作親像 帳簿、和紙	

2



図面の作成

2階平面図





本調査（3日間）

1. 目的

- ・ 資料群の構造・概要・概数の把握（基本情報）
- ・ 整理段階の把握（整理・情報化に関する情報）
- ・ 情報共有・公開基準を考えるための具体的史料の抽出

2. 手順

- ・ グループ単位で資料群または保管場所ごとに作業を進める
- ・ 資料群の容器または保管場所ごとに現状（保管場所又は容器番号・外観・中身）を撮影
- ・ 数量・内容・年代（・個人情報）を本調査調査票へ記入
- ・ 「地域資料情報継承記録モデル」または本調査リストの作成

3. 体制



産学官連携→様々な立場の人々の参加・協力

4. 成果の公開



地域への成果報告会

5. まとめ

産学官連携による調査事業の特徴

- 異なる立場・専門家による知見や技術の活用
- 調査過程・手法の客観化
- 事業としての計画性の確保
- 職業としての「資料調査」の確立と雇用の創出

ご清聴ありがとうございました。



ご質問のある方は、info@amane-project.jpまでご連絡ください

